

# 吉田(生光高)優勝 U18男子ハンマー

## U18女子砲丸川口(生光高)3位

陸上

JOC杯U18・U16

陸上のJOCジュニアオリンピックカップ第15回U18・第52回U16大会第2日は23日、愛媛県総合運動公園陸上競技場で男女19種目が行われ、U18男子ハンマー投げで吉田匠(生光学園高)が58斤28で優勝した。U18女子砲丸投げの川口由真(生光学園高)は13斤37で3位に入った。U18男子3000円で村田真一朗(鳴門渦潮高)が決勝に進み、34秒31で8位。同走り幅跳びに出場した三加茂中出身の元木涼介(京都・洛南高)は7斤

△徳島関係の成績

U18男子3000円走 組村田真一朗(鳴門渦潮高)34秒31  
 決勝進出▽同決勝川口由真(鳴門渦潮高)34秒31  
 走り幅跳びの元木涼介(京都・洛南高)三加茂中出身7斤02  
 △女子3000円走組村田真一朗(鳴門渦潮高)58斤28  
 △女子1500円走組花菜(山川中)5斤17

41秒11  
 U16男子1500円走 組の日比生壮太(天麻中)17秒05  
 清中(記録なし)女子1500円走4組の大塚百花(吉野中)19秒65  
 走り幅跳びの岸村花菜(山川中)5斤17

生光学園・川口由真(女) 砲丸投げで3位入賞



11投目で緊張から力みすぎて失投してしまっただけで、2投目でなんとか13斤台を投げることができ、3位に入れたが、悔しい思いの方が強い。来年、地元で行われるインターハイに向け、練習を頑張りたい

### 重圧はねのけ本領発揮

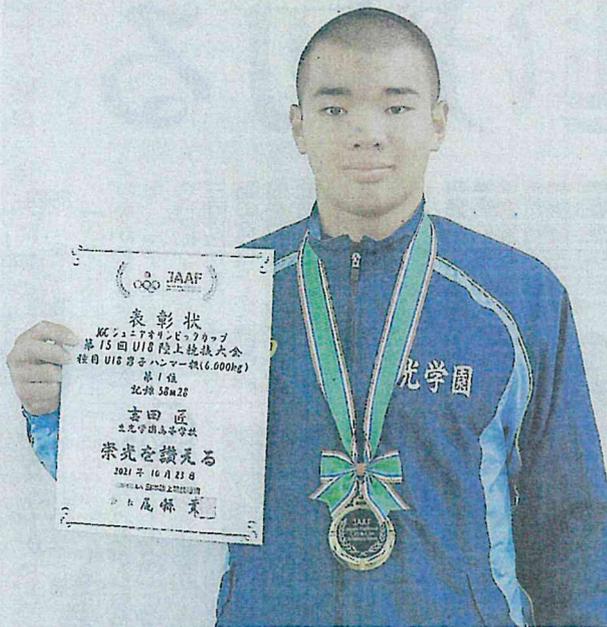
吉田

8月の全国総体(インターハイ)よりうれい」と声を弾ませた。3度の試技が許されるインターハイと違い、2度の試技で上位8人に入らないと3投目以降に進めない。緊張から力を出し切れない有力選手もいた。

大会前は人知れず重圧と格闘していた。1週間前には腰痛を訴え「欠場したい」と口にした。医師から出場できるとのお墨付きを得たが、林監督は「怖くなり、少しの痛みをすごく強く感じたのだろう」と推し量る。そんな窮地からの全国V。恩師は「フレッシュヤーに打ち勝った。素晴らしい」と目を細めた。

神戶市で過ごした中学時代は無名の存在ながら、投てきのために徳島にやって来て、ついに全国の頂点に立った。4月からは四国大に進み、引き続き徳島から引き継ぎ高みを目指す。

加治(徳島)



表彰状  
 JAAF  
 第15回U18陸上競技大会  
 陸上ハンマー投げ(C.600kg)  
 男子U18  
 優勝 58斤28  
 吉田 匠  
 生光学園高等学校  
 栄光を讃める  
 2021年10月23日  
 徳島県立総合運動公園  
 徳島県

U18男子ハンマー投げで優勝した生光学園高の吉田